東方紅狼記

RED Volt

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
東方紅狼記

【Ｎコード】
Ｎ１６０３ＢＡ

【作者名】
ＲＥＤ　Ｖｏｌｔ

【あらすじ】
能力を生まれつき持った中学生、紅夜雅紀。
なぞの能力者との戦いで心臓麻痺をくらい、人生終了・・・と思いきや、目が覚めたらそこは平安時代！
しかも狼の妖怪になってしまう有様。
果たして紅夜は平穏な生活を送れるのだろうか？

エピローグ　心臓麻痺（前書き）

まともな小説を書くのは初めてです。
それでもｇｄｇｄは避けられないかと。
よろしくお願いします。

エピローグ　心臓麻痺

突然心臓麻痺が俺を襲った。

「ガァ・・・・・ッ！ハァ・・・・・・ッ！？」

目の前にいる男は、ノーモーションで俺の心臓を止めやがった。
顔はフードで隠れて見えないが、無表情のまま俺を見つめている。

「・・・・・」

この男、一体なにもんだ？
まず、分かっているのは俺の『能力』が一切効いていない。
２つ目、俺の攻撃を知ってるかのように避ける。
３つ目、こいつも『能力者』であること。
それくらいしかわかってない。
しかもやたらと体術が強い。
おかげで片目を潰された。

怖い。

いままで俺が何回恐怖を感じたかなんて、指で数えられる程度だ。
でも、今回は違う。

こいつは、人間じゃない。

れっきとした人間だろうけど、精神的な意味ではこいつはもう人間じゃない。
そもそも、俺の『能力』が効かないことがそう。

（く・・・・・そ・・・・・ッ）

徐々に近づく自分の死。
とんでもなく怖いし嫌だ。
でも、もう体が動かない。
本当に、こいつは何者なんだろうか？
残りかすのような気力をフルで使い、最期にこいつの『能力』を解析してやるか・・・・・。

（間に・・・・・あ、え・・・・・）

残りゼロコンマ1秒。
おそらく間に合うのは不可能だろうな。
それでも、いい。

俺を殺せたんだし、まぁこれから頑張れよってことで。

「う・・・・・」

「・・・・・」

なんでだろうな。
今、完璧にそうみえたんだがな。

こいつ、なんで悲しい顔してんだろうな？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1603ba/

東方紅狼記

2012年1月4日01時52分発行